

いたちかわらばん

通刊27号

颯川・独川 / 川原番・瓦版

04 秋号



【版画 宗森英夫】

【瀬上池】

瀬上池の秋

池に朝もやがたちこめている時刻、瀬上池に竿を垂れている人影が三つほど見える。私は池の奥地に立って竿を動かしている青年に近寄って、何が釣れるのと尋ねた。『コイです。釣れそうな感じはしない。釣ったことあるの？』三年ほど前に70センチを上げましたよ、ここんどこはたまに釣れても40センチくらいです。その時、数メートル先の池の茂みでバシヤと水のはねる音がした。あれは何？、『ブラックバスがエビを追っかけてるんです。』そうか、ブラックバスね。向こうで竿を動かしている中高生らしき二人はルアーフィッシングのようだ。

25年くらい前、この地に引越した頃、小学校入学前の長男とよくこの池に遊びに来た。その頃、この池にはクチボソがいて、浅瀬に入ってご飯粒の入ったザルを沈めるとザルの中に沢山のクチボソが入った記憶がある。釣り針で釣っても面白いように釣れたが、現在の瀬上池には小魚の姿はほとんど見ることはできない。

日が昇り朝もやもなくなりハイキング姿の人が散策道から紅葉を見上げながら通り過ぎる。晩秋の晴れた日、池の縁の紅葉が鮮やかな色を水面に映す。散策道からモミジを透かして空を見上げると、日に映えて赤・橙・黄色に輝く紅葉が青空を背景に浮き上がって見え、実に素晴らしい眺めである。

比較的常緑樹が多い一帯の森の中で瀬上池は紅葉の名所となっている。池の周りの通路側に十数本、対岸に数本のイロハモミジがある。水面から50センチくらいの所に株があることから推測すると自然に生えたものと思われる。モミジのほかにコナラ・クヌギなども多く、これらも紅葉にいつその自然の趣をそえている。モミジを「池の上広場」の周囲にまでも植え広げると素晴らしい景観が生まれそうだ。

釣り竿を持ちながら、独り言のように『横浜にこんな池のあるところっていいよね』といった青年の言葉が印象的だった。

(谷 溪)

2004 (平成16) 年発足・尾月水辺愛護会

昭和50年代に引っ越してきたわたしどもは、独川の看板を見て「なんてよむの?」「いたち川だって。」このことから子どもの頃のイメージが蘇り、急に親しみを覚えたものでした。靴のまま川に入り夢中になっている子どもたちのバケツの中のザリガニやヤゴを覗かせてもらったのを覚えています。

この独川の出会いから20数年。ここへきて急に整備が進み、扇橋の水辺、稻荷森の水辺に続き、平成14年尾月橋の水辺が完成し、遊歩道沿いにはソーラー照明の街灯もつきました。時を同じくして退職したわたしどもは、毎日の散歩を犬と一諸に楽しませてもらっています。天候や季節により変化する川の風景は毎日眺めても飽きません。それと同時に、川や遊歩道に勢いよく被いかぶさる草の繁茂を見るにつけ、行政の対処を待っているだけでは間に合わないことも分かりました。

そんな折、尾月橋から葉月橋までの水辺の維持管理をする尾月水辺愛護会が平成16年4月に発足したのです。会員17名で毎月第二土曜日に清掃と除草を行っています。早川会長の「無理をせず都合のつく時に参加し

て、楽しみながら息永くやっけていきたいと思います。」の掛け声に賛同し、安心して会員に名を連ねております。私自身はいま参加できずにはおりますが、夫は草刈に一汗流してくるのを楽しんでおります。地域住民の一人として何とか係わっていただけたいと思っています。

この水辺内に二つある大きな中州の一つだけ草がきれいに刈り込まれました。もう一つは時間がなく残されたと思っていたら、会長さんのお話で、巣を作っている鳥のために草はそのままそっとしておくことを知りました。気持ちのよいせせらぎの音のする浅瀬の広がりや子どものよい遊び場ですが、一晩の大雨で表情を変える暴れ川であることを見て、昔に思いをめぐらせてみたりもしました。しだいに注意深く眺められるようになり、カワセミを、それも同じ時間帯に見かけることができました。今までに見たことのないピンクの花を見つけ、調べてみると初化粧(はつげしょう)と名が分かり、この初々しい名をつけた昔の人の感性に感嘆。奥の深いこの独川を自分達の川として親しみ接していけることに感謝しています。(中野 田鶴子)

「よこはま川のフォーラム」で、長倉町小川アメニティ愛護会が「特別賞」を受賞!

9月18日に戸塚公会堂で行われた「よこはま川のフォーラム2004」において、「長倉町小川アメニティフェスティバル(8月21日・22日)」を開催した長倉町小川アメニティ愛護会が「特別賞」を受賞しました。このフェスティバルでは、いたちかわらばん全号のパネル展示、「小川アメニティ」や「自然観察の森」の散策案内、お茶のサービス等が行われ、約100人の来場者が、愛護会の皆さんによってきれいに手入れされた小川アメニティを楽しみました。

独川OTASUKE隊 新メンバー募集!

私たち「独川OTASUKE隊」は、情報紙「いたちかわらばん」の編集発行を通じていたち川への関心を高め、愛護意識を広めることを目指して活動している区民グループです。

今後は、いたち川にまつわるイベント等の開催を企画しており、活動の拡大にあたって新メンバーを募集します。いたち川に関する活動にご興味をお持ちの方、私たちと一緒に活動してみませんか?

- 活動日 毎月1回(定例会議、第4月曜日19時~21時、栄区役所会議室)、その他随時
- 活動内容

- (1) 「いたちかわらばん」の編集
→ 「いたちかわらばん」の作成に興味がある方、パソコン操作ができる方は特に歓迎します。
- (2) いたち川にまつわるイベントの企画、運営
→ 自然散策やフォーラムの企画など、みんなでわいわいとやるのが好きな方、大歓迎です。

- 募集人数 (1)、(2) 各5名程度
- 応募方法

お名前、ご住所、年齢、電話番号、メールアドレス(お持ちの方のみ)、独川OTASUKE隊でやってみたいこと等をご記入の上、以下の方法でご応募ください。

○往復ハガキの場合: 〒247-0005 栄区桂町303-19

栄区役所区政推進課企画調整係 独川OTASUKE隊事務局宛(11月19日(金)消印有効)

○Eメールの場合: sa-kikaku@city.yokohama.jp (11月21日(日)必切)

発行年月
2004年10月

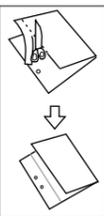
通刊27号

発行: 独川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせは こちらまで)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



川べりのライフスタイル

プロムナードに顔を向けて建てられる家が増えてきました。

今回は中流域を訪ね、住民の方にお話を伺いました。

川縁での住まい方、快適さ、交流など、魅力ある暮らしぶりがうかがえます。

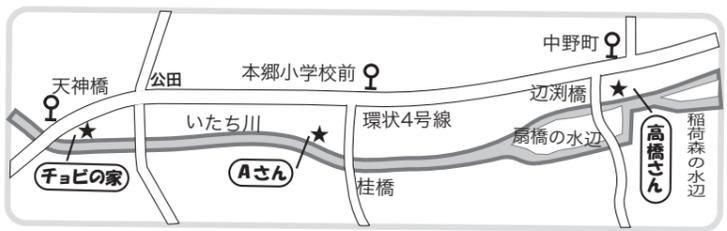
僕は、アメリカン
カンショートヘアのチ
ョビ。去年、東京から引っ越して
来た。目の前がいたち川で、魚や鳥が沢山いて素晴
らしいところだね。
家の前にある柵の上で、ひなたぼっこをするのが大好き
だ。もう友だちが沢山きたんだよ。
犬とも仲良しだし、散歩や通勤で通る人たちも、わざ
わざ声をかけてくれる。だから僕も「ニャーン」て、返事を
するんだよ。でも、困っていることがある。まずは犬の糞さ。犬は
友だちだから悪くないんだ。飼い主さん！ちゃんと片付けてよね。
それから、ベンチでお弁当を食べているおじさん！ ゴミは持ち
帰ってくれないかな。そしてもう一つ、天神橋のところではいたち川
が途切れてまうのは悲しいな。僕は車が通る道路は
苦手だ。どうにかして川に沿って下流まで
行けないものかと毎日、川を見ながら
僕は猫なりに
一生懸命考え
ているんだ。



Aさん 子どもの頃は
いたち川で泳いだり、つりをした
りして遊んでいました。メダカ、ザリガ
ニ、サワガニ、アオダイショウなど、いろん
な生き物がいて楽しかった思い出があります。
結婚してからも、家族と散歩をしたり、川に入っ
て水遊びをしたりして楽しんでいます。
昔は川が「ただここにある」というだけでし
たが、今は生活に取り入れられた、癒しの
川に変化してきているのを感じて
います。

Aさんの奥さま
「子どもを連れて
川縁を散歩できる
ことが何より嬉しい、
それが最高！」

高橋さん
わが家の庭先には稲荷
森・扇橋の水辺が広がり、
四季折々の美しさを見せてくれ
ます。春には新緑、ウグイスの声は
たまりません。夏は涼しく、川には沢
山の魚が泳ぎます。
秋には草木が色さまざまに色づき、冬の
雪景色、これがまたなんとも言えず風情
があります。栄区で生まれ育って66年。
どこへ旅する必要もなく、毎日豊かな
自然を愛でながらゆったりと
紫煙を味わう、これが
至福の時です。



縁の下の力持ち (その2)

いたち川を清掃する水辺愛護会を結成して八年に
なります。その間、一番の悩みはメンバーの減少と
高齢化傾向にありました。そんな折、警察学校より
「生徒をボランティア活動に参加させたい」と願っ
てもないお話を頂きました。

以来、毎回一〇名以上の方が若い戦力としてご参
加くださり、上は天神橋から、下は柏尾川に至る区
間で、胴長を着て川の中で活躍してくれています。
近隣の方から「警察学校の生徒さんたち、良く頑張
つてますね」との声を耳にする度、メンバー共々喜
んでおります。

今回は熱心に参加された木村さんのレポートを次
に紹介いたします。来年二月以降、木村さんの颯爽
とした女性警察官の姿が管内で見られることを望
んでおります。 (いたちの父さん)

いたち川ボランティアに参加して

警察学校 木村 祐子

私は、本年四月に青森県から神奈川県警察学校に
入学しました。「横浜」といえば「大都会」という
イメージがありますが、入校の日に学校へ向かった
私は、正門の前に鯉の住むきれいな川が流れている
ことに気づきました。

この川は「いたち川」といい、ボランティアの方々
が月に一度清掃してくださっていると聞き、私も機
会に恵まれ、入校以来二回、共に活動させていただ
くことができました。地元の自然を守り、次の世代
に引き継ぐため地道な活動を続けていると教えてい
ただきました。

地域を守るには、地域の一人一人の力が集まった
ボランティア活動が大きな支えであることを実感し
ました。地域の方々と共に歩むという気持ちを忘れ
ず、この貴重な体験を職場でも生かしていきたいと
考えています。そして、私自身は来年一月、この学
校を卒業しますが、これからも、いたち川が地域の
皆さんと警察学校の学生を結ぶ架け橋であって欲し
いと思っております。

いたち川で見られる植物 ⑥

ジュズダマ



田んぼの畦や水辺に生える熱帯アジア原産のイネ
科の多年草です。高さは一メートル前後で、幅の広
い葉を多くつけます。上部の葉のわきから多数の花
穂を立てます。花期は七月〜一〇月です。垂(つぼ)の
色は黒色、褐色など様々です。これを糸を通した
針でつないで数珠を作ったので、「ジュズダマ」の名
がつけられました。

昔は、女の子の遊び道具だったお手玉に詰めたり、
夏向けの枕に詰めたりしました。これから秋になる
と、青かった実が、だんだん黒ずんできて目立つよ
うになります。いたち川では、中流域でよく見られ
ます。 (いもり)

(注) 実のようにみえるが包鞘(ほうしよう)といい、花を包む
構造物で硬くなったもの。